

レスリング女子インターハイ3連覇
藤田 真妃琉さん・18歳 前橋育英高3年

敗戦を乗り越えたどり着いた頂点

7月に和歌山県で開催された全国高校総体（インターハイ）レスリング女子76kg級で優勝した藤田さん。女子史上5人目となる大会3連覇を果たした。「優勝が決まった瞬間は、うれしい気持ちもありましたが、それ以上に安心した気持ちが大きかったです」と振り返る。決勝の相手は中学時代から何度も対戦してきたライバル。前半はリードを許しながらも、後半に逆転して勝利をつかんだ。

レスリングを始めたきっかけは、小5のときにプロレスラーの父・藤田和之さんからレスリングの話を聞き、試合映像を見たこと。以来競技に打ち込み、高校では朝と放課後合わせて1日3時間以上の練習に励んでいる。

今年の春には同じ相手に敗れ、「負けるのが怖かった」という藤田さん。「負けてもいいから思い切ってやろう」という指導者の言葉で吹っ切れ、自身の取り組みを一から見直したことが、インターハイ3連覇につながった。



「力や技術だけでなく、相手との駆け引きなど頭も使うところがレスリングの魅力」と話す。千葉県出身で、現在は寮生活を送りながら競技に打ち込む一方、休日には先輩や後輩と食事に出かけたり、大好きなプロレスを観戦したりして気分転換している。「将来の夢は世界で活躍する選手になること」と話す藤田さん。高校卒業後は育英大に進学予定だ。年末の全日本選手権優勝を次の目標に、その視線は世界の舞台へと向けられている。

CITY フォーカス

本市のイベントや
事業などを紹介

暴れ獅子勇壮に巡る

7月25日・26日に大胡祇園まつりを開催しました。上州大胡風神太鼓の演奏や八木節、山車の巡行などが行われ、多くの来場者でにぎわいました。26日には、暴れ獅子が商店や民家を練り歩き、町内を清めながら厄払いを実施。勇壮な姿に見物客から大きな歓声が上がりました。



【第2回】上州大胡風っ子太鼓

☎ 広報ブランド戦略課
☎ 027-898-6971

スローシティ前橋・赤城エリアの未来に残したいものをテーマに本コラムを掲載します。

スローシティ前橋・赤城エリアには、豊かな自然や食、歴史とともに、地域の人々によって受け継がれてきた文化があります。

上州大胡風っ子太鼓は、大胡町を拠点に活動する和太鼓集団「上州大胡風神太鼓」のジュニアチームです。令和元年に活動を開始し、現在は6歳から18歳までの約20人が所属しています。毎週金曜に練習を重ね、地域文化の継承に取り組んでいます。

7月の大胡祇園まつりをはじめ、県内各地のイベントや福祉施設などで演奏を披露。力強い太鼓の響きと息の合った演奏は地域の人々に親しまれ、大胡のまちに欠かせない存在となっています。

和太鼓の魅力は、その迫力だけではなく。一つの演奏をつくり上げるために仲間と協力し、礼儀や責任感、思いやりの心を育むことができます。また、指導者や保護者、地域住民との交流を通じて、世代を



超えたつながりが生まれていることも大きな特徴です。

上州大胡風神太鼓会長の新井雅也さんは「地域の絆と伝統文化を未来へ受け継いでいきたい」と話します。

10月には地元イベント「ウィンドミルフェスティバル」への出演も予定され、さらなる活躍が期待されます。

地域固有の文化を次世代へ継承することは、スローシティが大切にしている理念の一つです。上州大胡風っ子太鼓の力強い音色は、これからも地域の誇りとして受け継がれ、人と人をつないでいくことなのでしょう。



夜空を彩る大輪の花火

8月8日、利根川河畔の大渡橋南北の河川緑地で第70回前橋花火大会を開催。約1万5,000発の花火が夏の夜空を彩りました。打ち上げ幅800mの超ワイドスターマインも登場。利根川の川面にも光が映り込み、会場は家族連れや友人同士など多くの人でにぎわいました。

楽しく科学を学ぶ教室

8月11日に前橋工科大こども科学教室を開催しました。ペットボトルランタンやスライムづくりなど、身近な材料で作れる体験のほか、プログラミングの講座などを実施。GENKI LABOサイエンスライブでは大きな空気砲や液体窒素を使った実験で、会場を盛り上げました。

